様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年３月３１日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：２００９～２０１０
課題番号：２１８３０１３０
研究課題名（和文）南アジア諸国の初等・中等教育制度拡充における宗教教育機関活用に関する研究

研究課題名（英文）Research on Utilization of Religious Educational Institutions in Expansion of Primary and Secondary Education System in South Asian Countries

研究代表者
日下部　達哉　(Kusakabe Tatsuya)
広島大学・教育開発国際協力研究センター・准教授
研究者番号：７０５３４０７２

研究成果の概要（和文）：
本研究では、南アジアの教育制度拡充における宗教教育機関の活用に関する調査を行い、バングラデシュとインドにおけるイスラーム神学校であるマドラサの公教育包摂について明らかにした。両国ともにマドラサを公教育の中に包摂している部分と、していない部分とが存在しており、二国の比較分析によって普通教育制度と宗教教育制度との相互の弾力的運用の多様な可能性があることをつきとめた。これらの知見は、途上国における教育制度改革に有用な知見であるといえる。

研究成果の概要（英文）：
This study examined utilization of religious educational institutions in expansion of education systems in South Asia. The study focused on Bangladesh and India both of which have included part and excluded part of Madrasa education on public education system. This study found that various possibilities of flexible operation on relationship between school education system and religious education system through comparative analysis between Bangladesh and India. These major findings are useful for education system reforms at developing countries.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	７１０，０００	２１３，０００	９２３，０００
2010 年度	６２０，０００	１８６，０００	８０６，０００
年度			
年度			
年度			
総　計	１，３３０，０００	３９９，０００	１，７２９，０００

研究分野：比較教育学
科研費の分科・細目：教育社会学
キーワード：初等・中等教育制度拡充、宗教教育機関の活用、マドラサ、弾力的運用

１．研究開始当初の背景

現代南アジア諸国では、インドを筆頭に、急速な経済成長に伴って学歴形成への関心が高まってきている。このため、生徒数も増加し、教育の供給側にも従来の国家が主導する学校建設に加えて、多様な担い手が参入してきていた。その担い手の最たるものが、国内外からの NGO であり、８０－９０年代を通じて NGO による教育供給数は増加してきていた。また、それは今なお増加し続けている。

しかし宗教教育機関も、NGO 同様に増加し続けており、公教育と何らかの接点を持ち、ある場合には政策そのものがノンフォーマルセクターである宗教教育を前提とする制度展開をしている、という点で NGO と同じ傾向が見られた。またこれまで、NGO の研究蓄積が豊富であるのに比べ、宗教教育機関による教育供給、あるいは宗教教育機関の学校化に関する研究は、行われてこなかったことが、本研究を着想・開始するに至った背景である。

２．研究の目的

本研究は、現代南アジア諸国、特にインドとバングラデシュの初等・中等教育制度拡充における宗教教育機関活用に関して、現地調査を行い、普通学校教育への宗教教育機関活用という制度構築をする側である政府と、宗教教育の供給側である宗教権威や、それをとりまく人々との関係をつなぐ視点を、学術的に追求するとともに、国際協力の現場へも知見を提供していくことを目的とした。

なお、ここでは宗教教育の調査対象は、南アジアで最も大規模な部類に入るイスラーム教育を施すためのマドラサ（イスラーム神学校）としている。

３．研究の方法

まず、バングラデシュとインド両国の教育制度を文献およびウェブサイトで概観し、政府の側がいかにマドラサ教育をコントロールしようとしているかの構造を把握しようとした。

次に、政府系マドラサであるアリアマドラサと非政府系マドラサであるコウミマドラサの制度的関連、さらにはマドラサ全体と普通学校教育制度との関連性をも明らかにすべく、バングラデシュとインドのマドラサ（イスラーム神学校）についてフィールドワークによる調査を行った。

ここで、「政府系マドラサ」とは、当該教育機関において、学習者にナショナルカリキュラムを担保する代わりに、国から主として教員給与分の補助金を受け取ることができる系列である。この場合、宗教科目はむしろ課外授業の類となる。一方、「非政府系マドラサ」は、かなり厳格にイスラームの価値観に基づいた教育を施し、カリキュラムもナショナルカリキュラム通りの教育課程を実践していない。このため、「非政府系」の運営資金は、自ら調達する形になり、独自性の高い運営形態をとっている。

調査は、バングラデシュではダッカ、チッタゴン、ブラフモンバリアの各地域、インドではデーオバンド地方において行い、計５校のマドラサを訪問し、教師、学生へのインタビューを行った。これに加え、近隣住民への調査票による調査も行った。

訪れた調査地は、バングラデシュに数の偏りがあるが、イスラーム教育の実施状況は、ムスリムが国民の 85%以上を占めるバングラデシュで、より盛んであり、このバランスを鑑みた結果である。

４．研究成果

本研究では、南アジアの二国を事例に、教育制度拡充における宗教教育機関活用の問題に関し、バングラデシュ（ダッカ、チッタゴン、ブラフモンバリアの各地域）とインド（デーオバンド地方）のマドラサ（イスラーム神学校）のあり方、また、政府系マドラサであるアリアマドラサと非政府系マドラサであるコウミマドラサの制度的関連についての調査を実施した結果、以下のことを明らかにした。

現時点では、インドとバングラデシュ両国とも、アリアマドラサが政府補助を受けつつ、ナショナルカリキュラムを担保している状況に対し、コウミマドラサが政府補助を受けず、独自のカリキュラムで運営している二元的な状況が存在している。

バングラデシュにおいては、これが初等～高等教育に至るまで、普通学校教育制度と宗教教育制度すなわちマドラサとの二元的教育制度であり、国に認められたアリアマドラサは、普通教育の課程を修了することによって同様の教育修了証を授与することができる。よって、アリアマドラサは二元的教育制度とはいえ、「学校」として通用するものである。これが定められたのが1985年で、初等レベルであるダキルが普通初等教育と、前期中等レベルであるイブテダイーと普通前期中等教育と、後期中等レベルであるアリムが普通後期中等教育と、それぞれ修了証読み替えがなされた。

しかし、コウミマドラサは独自のカリキュラムで、独自の修了証および学位授与のシステム、試験システムを持ち、コウミマドラサ教育委員会という、主に試験制度を司る委員会によってコントロールされており、普通教育との隔たりは大きかった。この委員会と政府とは80年代から交渉そのものが存在し、難航しつつも続けられてきたが、2009年、初めて、首相シェイク・ハシナが、コウミマドラサを教育機関の一つであると認知した。しかし、すでに述べたような「隔たり」はいまだ大きく、これからのコウミマドラサの「学校」化はまだ難航することが予想される。

一方、インド、デーオバンド地方にあるデーオバンドマドラサの調査では、高等教育の一部で、コウミマドラサが公教育につながっていることを明らかにした。

バングラデシュのコウミマドラサは、普通教育およびアリアマドラサとの修了証・学位読み替えが不可能なため、現在のところ初等教育段階終了後、普通教育の中等教育進学といった経路変更が不可能である。これに対し、インドの場合、デーオバンドマドラサの学部レベルの卒業生がアリーガル大学、ジャーミア・ミリア・イスラミア、ジャーミア・ハムダードの修士レベルに入学が可能であり、ここでの学位を取得すれば、例えば博士課程においてデリー大学などにも移動が可能である。

本研究では、南アジアの教育制度拡充における宗教教育機関の活用が、アリアマドラサ内における普通教育のみならず、インドのデーオバンドマドラサの事例に見られるように、高等教育レベルまで独自の基礎教育以外の普通教育は施さず、学部レベル修了後に、宗教学における高度な専門性を身につけたうえで普通教育の大学に編入する事例が見いだされた。

このことは、南アジアに、既に普通教育制度と宗教教育制度との相互の弾力的運用があることを示しており、全世界の途上国における教育制度構築に有用な知見といえる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

①日下部達哉（2011）「『教育の時代』とマドラサ」、日本南アジア学会編『南アジア研究』第 22 巻、頁数未定（印刷中）。（査読あり）

②日下部達哉（2011）「バングラデシュ農村における子牛給付による奨学プログラムの比較事例研究」広島大学教育開発国際協力研究センター編『国際教育協力論集』第 13 巻 1 号、pp.97-105。（査読無し）（研究ノートとして採録）

③ Tatsuya, Kusakabe（2011）Recent Developments of Teacher Profession in African and Asian Countries -From overview of Zambian Education Forum Part 2-, CICE Hiroshima University, *Africa-Asia University Dialogue for Educational Development Report of the International Experience Sharing Seminar (2)*, pp.223-236.（査読無し）

〔学会発表〕（計２件）

①日下部達哉・ラフマンモクレスール（2010）「バングラデシュ農村の構造変動と教育－メヘルプール県カラムディ村の30年」、九州教育学会、2010年12月11日、九州大学。

②Tatsuya, Kusakabe (2010) "Transition of Education Development-A Decade in Rural Bangladesh", World Congress of Comparative Education Societies, 6th, June, 2010, Bogazichi University, Turkey.

〔図書〕（計１件）

①日下部達哉（2010）「バングラデシュ学校教育制度の量的拡大とその諸相」、望田研吾編『21 世紀の教育改革と教育交流』、東信堂 pp. 216-235 所収.

〔その他〕（計１件）

①日下部達哉（2010）「バングラデシュのマドラサ」、『地理と歴史-世界史の研究』、山川書店、pp.51-56 所収。

６．研究組織
(1)研究代表者

日下部　達哉　（Kusakabe Tatsuya）

広島大学・教育開発国際協力研究センター・准教授

研究者番号：７０５３４０７２

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：